

社会福祉法人 つばめ福祉会  
介護福祉士実務者研修(通学課程) 情報開示項目

設置者に関する情報

- ① 設置者の法人種別、名称並びに主たる事業所の所在地及び連絡先  
社会福祉法人 つばめ福祉会 新潟県燕市大曲 2486 番地  
電話番号 0256-61-6363 FAX 番号 0256-61-6771
- ② 法人の代表者の氏名  
理事長 吉田 賢一
- ③ 介護福祉士養成施設以外の実施事業  
社会福祉法人 つばめ福祉会 ホームページ「事業所一覧」参照
- ④ 財務諸表  
全国社会福祉法人経営者協議会ホームページに掲載

介護福祉士養成施設に関する情報

- ① 介護福祉士養成施設の名称、住所及び連絡先  
社会福祉法人 つばめ福祉会 新潟県燕市大曲 2486 番地  
電話番号 0256-61-6363 FAX 番号 0256-61-6771
- ② 介護福祉士養成施設の代表者の氏名  
理事長 吉田 賢一
- ③ 介護福祉士養成施設の開設年月日  
平成 28 年 6 月 1 日
- ④ 学則  
別添 学則 参照
- ⑤ 介護福祉士養成施設の研修施設、図書館(蔵書数を含む)等の設備の概要  
研修施設：社会福祉法人 つばめ福祉会 法人本部  
図書室の蔵書数：3000 冊以上(専門書、一般図書など)

## 養成課程に関する情報

### ① 養成課程のスケジュール

募集要項 参照

### ② 定員

10名

### ③ 入学までの流れ(募集、申込、資料請求先)

1. 入学志願者は、期日までに居住地を管轄する公共職業安定所へ、入校申込書等の必要書類を提出する。
2. 入学者の選考は、公共職業安定所が審査の上、新潟県立三条テクノスクールが実施する。
3. 新潟県立三条テクノスクールの選考を経て合格の通知を受けた者へ受講の手引き等の資料を送付し、テキスト代の納付を確認した時点で入学手続完了とする。なお、この際の振込料金は、受講生の負担とする。

### ④ 費用

入学金・授業料は無料とし、テキスト代 14,080 円(税込)のみ受講生負担とする。なお、前記の費用は、当法人指定口座に案内期日までに一括振込で納付しなければならない。

### ⑤ 科目ごとのシラバス

別添 シラバス 参照

### ⑥ 教員数、科目ごとの担当教員名(教員の氏名、略歴、保有資格)

別添 講師一覧 参照

### ⑦ 使用する教材

介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 全 5 巻(中央法規出版株式会社)

### ⑧ 介護実習施設等の名称、住所及び事業内容

特別養護老人ホーム 白ふじの里 新潟県燕市大曲 2472 番地 1

## 実績に関する情報

### ① 卒業者の延べ人数 18 名(平成 31 年 3 月 1 日現在)

平成 28 年度 4 名

令和元年度 6 名(受講中)

平成 29 年度 6 名

平成 30 年度 8 名

# 社会福祉法人つばめ福祉会 介護職員養成事業 介護福祉士実務者研修(通学課程) 学則

## 第1章 総則

### (設置目的)

第1条 介護福祉士実務者研修は、介護職員として福祉サービスに従事しようとする者を対象とした基礎的な職業教育とし、対人理解や対人援助の視点と理念、専門的な職業人として職務にあたる上での姿勢、知識・技術を習得することを目的とする。さらに、将来的には介護福祉士をめざし、より専門的な知識・技術を習得していくことを視野に入れた基盤の形成に資することはもちろん、地域福祉の担い手として活躍できる人材を育成することによって、広く地域社会に貢献することを目的とする。

### (名称)

第2条 本研修は、社会福祉法人つばめ福祉会(以下、「当法人」という。)介護福祉士実務者研修(通学課程)と称する。

### (位置)

第3条 本研修の位置を、新潟県燕市大曲 2486 番地に置く。

### (運営組織)

第4条 当法人の養成施設には、次の教職員を置く。

- ・理事長(養成施設の長) ・本部事務局 教育研修室長 ・同教育研修室室員
- ・教務に関する主任者 ・専任教員 ・介護過程Ⅲを担当する教員
- ・医療的ケアを担当する教員

## 第2章 修業年限、定員

### (修業年限、開講期間、生徒定員、学級数)

第5条 本研修の修業年限、生徒定員、学級数等は、次のとおりとする。

課程	修業年限	開講期間	生徒定員	学級数
介護福祉士実務者研修(通学課程)	6ヶ月	9月 ～ 3月	10名	1

### (在学年数)

第6条 受講生は6ヶ月を超えて在学することができない。

### 第3章 教育課程

#### (履修方法)

第7条 授業は教材および受講の手引きを配布し、講義形式によって行う。

#### (科目の免除)

第8条 科目の免除は行わないこととする。

#### (学習の評価、課題修了の認定)

第9条 課題修了の認定は、次のとおりとする。

- (1) 課題修了の認定は、各科目のカリキュラムを全て履修し、かつ各科目の修了評価および演習に係る評価の結果が、養成施設が定めた水準を超えた受講者に対し行う。
- (2) 修了評価は、筆記試験により行うこととする。なお、当該筆記試験については、100点を満点評価とし、理解度の高い順にA・B・Cの区分で評価し、B以上で修了時に到達すべき水準に達したものの(合格)と認定する。  
A：80点以上 B：60～79点 C：59点以下
- (3) 介護技術(演習)と医療的ケア(演習)の評価は、チェックリスト形式による評価を行い、習得度の評価を行うこととする。なお、介護技術(演習)の評価については、習得度の高い順にA・B・C・Dの区分で評価し、C以上で修了時に到達すべき水準に達したものの(合格)とする。
- (4) 合格に達しなかった受講者については、再試験・再評価を受けることとする。

#### (学年、学期、休業日)

第10条 本研修の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 土曜日
- (2) 日曜日
- (3) 国民の祝日に関する法律で規定する日
- (4) 夏期休業 8月13日から8月15日
- (5) 冬期休業 12月29日から1月3日

#### (臨時講義)

第11条 養成施設の長は教育上の必要があり、かつ、やむを得ない事情があるときは、前項の規定に関わらず授業を行うことができる。

#### (臨時休講)

第12条 養成施設の長は非常災害その他の急迫の事情があるときは、臨時に授業を中止することができる。

## 第4章 入学

### (入学時期・終了時期)

第13条 入学・終了は、新潟県立三条テクノスクールが公共職業訓練委託事業で指定する期日とする。

### (入学資格)

第14条 本研修に入学できる者は、次のいずれも満たす者とする。

- (1) 求職者で公共職業安定所が適正と認めた者
- (2) 心身ともに健康な者

### (入学志願手続)

第15条 入学志願者は、期日までに居住地を管轄する公共職業安定所へ、入校申込書等の必要書類を提出しなければならない。

### (入学者の選考)

第16条 入学者の選考は、公共職業安定所が審査の上、新潟県立三条テクノスクールが実施することとする。

### (入学手続)

第17条 当法人は、新潟県立三条テクノスクールの選考を経て合格の通知を受けた者へ受講の手引き等の資料を送付し、テキスト代の納付を確認した時点で入学手続完了とする。なお、この際の振込料金は、受講生の負担とする。

## 第5章 転入学、退学、休学、復学、卒業

### (転入学)

第18条 本研修への転入学は、許可しない。

### (退学)

第19条 疾病その他の事由により退学しようとする者は、当法人に申し出た上で、新潟県立三条テクノスクールへ所定の様式により願い出なければならない。

### (休学、復学)

第20条 疾病その他の事由により休学・復学の申し出があった場合、希望する休学期間、卒業要件等から新潟県立三条テクノスクールと協議の上で検討し判断する。

### (卒業)

第21条 全てのカリキュラムを履修し、課題修了の認定を受けた者に対し、修了証明書を授与する。

## 第6章 学費

(入学金、授業料等)

第22条 入学金・授業料は無料とし、テキスト代 14,080 円(税込)のみ受講生負担とする。なお、前記の費用は、当法人指定口座に案内期日までに一括振込で納付しなければならない。

(補講料)

第23条 講義を欠席したときは、修了の認定に必要な時間の補講を行う。

- 2 1日に実施可能な補講は、最大6時間とする。
- 3 補講料は、欠席した時間数が1時間につき1,000円(税込)とし、受講生が負担する。修了評価が再試験となった場合、再受験料は2,000円とし、受講生が負担する。

## 第7章 懲戒および除籍

(懲戒)

第24条 次の各号のいずれかに該当する者で、教育上必要があるときは、新潟県立三条テクノスクールと協議の上で、懲戒処分を行う。

- (1)養成施設の秩序を乱し、その他受講生の本文に反する行為のあった者
  - (2)素行不良で改善の見込みがないと認められる者
  - (3)学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
  - (4)正当な理由もなく出席が常でない者
  - (5)養成施設構内およびその周辺において、学業の遂行あるいは養成施設内秩序の維持を妨げる各種団体加入等の勧誘行為を行った者
- 2 懲戒は、説諭、謹慎、停学および退学とする。

(除籍)

第25条 次の各号に該当する者は、新潟県立三条テクノスクールと協議の上で除籍する。

- (1)所定の期日までに授業料の納付がなく、督促を受けても2週間以内に完納がない者
- (2)受講期間を超えた者
- (3)第20条に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- (4)1週間以上連絡が取れない者
- (5)死亡した者

(附則)

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 高橋 是司、平野 英明、中山 毅	時間数 5 時間
<b>【到達目標】</b> 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。	
<b>【授業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>人間の尊厳と自立</u></li> <li>・ 人間の多面的な理解と尊厳                      人間を理解するということ、人間の尊厳と意義、人権そして尊厳をめぐる歴史的経緯、人権そして尊厳に関する諸設定</li> <li>・ 自立・自律の支援                      介護における自立、自立への意欲と動機づけ、自立した生活を支えるための援助の視点、介護における自立支援の実践、実践例を通じた介護における自立支援の理解</li> <li>・ 人権と尊厳                      介護における権利擁護と人権尊重、介護における尊厳保持の実践、尊厳を無視した介護の課題</li> </ul>	
<b>【使用テキスト】</b> 介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 第 1 巻 (中央法規出版株式会社)	<b>【単位認定の方法・基準】</b> 修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">社会の理解 I</p>	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 <p style="text-align: center;">西村 剛祐、阿部 勝之</p>	時間数 <p style="text-align: center;">5 時間</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護保険制度創設</u>の背景と目的                      人口の少子高齢化と家族による高齢者介護の限界、1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の基本理念</li> <li>・ <u>介護保険制度</u>の基礎的理解                      介護保険制度の概要、保険者・被保険者、保険給付の対象者、保険給付までの流れ、保険給付の種類と内容、地域支援事業、国・都道府県・市町村の役割、その他の組織と役割、介護保険の財政</li> <li>・ <u>介護保険制度</u>における専門職の役割                      介護福祉士の役割、介護支援専門員の役割、その他の専門職の役割</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b></p> 介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修) 第1巻 (中央法規出版株式会社)	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b></p> 修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度



## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">社会の理解Ⅱ</p>	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 <p style="text-align: center;">中山 毅、佐野 一美、松澤 香織 山田 一郎、上原 正直</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30 時間</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族、地域、社会との連携から生活と福祉をとらえることができる。</li> <li>○ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。</li> <li>○ 障害者の自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</li> <li>○ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>生活と福祉</u>                      家庭生活の基本機能、家族、地域、社会集団と組織、ライフスタイルの変化</li> <li>・ <u>社会保障制度</u>                      社会保障の役割と意義、社会保障の目的と機能、社会保障の範囲と対象、現在の社会保障制度の体系、年金保険、医療保険、後期高齢者医療制度、雇用保険、労働者災害補償保険、社会扶助の概要、公的扶助、社会手当、社会福祉</li> <li>・ <u>障害者自立支援制度</u>                      障害者自立支援法の制定とねらい、障害福祉サービスの種類と内容、障害福祉サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、障害者自立支援制度における事業者と施設、障害者自立支援制度における組織・団体の機能と役割、国・都道府県・市町村の基本的役割、指定事業者の役割、その他の機関、ライフスタイルからみた支援組織</li> <li>・ <u>介護実践に関連する諸制度</u>                      サービスの利用にかかわる諸制度、虐待防止の諸制度、人々の権利を擁護するその他の諸制度、保険医療にかかわる諸制度、医療にかかわる諸制度、福祉資金の諸制度、住生活を支援する諸制度</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 1 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">介護の基本 I</p>	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 <p style="text-align: center;">池内 明、鈴木 智正、後藤 浩二 西村 剛祐、西潟 和枝</p>	時間数 <p style="text-align: center;">10 時間</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。</li> <li>○ 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</li> <li>○ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護福祉士制度</u>                      介護福祉士を取り巻く状況、社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>・ <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u>                      利用者に合わせて生活支援、自立に向けた支援、介護の専門性</li> <li>・ <u>介護福祉士の倫理</u>                      介護福祉士としての倫理の必要性、日本介護福祉士会倫理綱領</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 2 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">介護の基本Ⅱ</p>	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 <p style="text-align: center;">佐藤 映美子、八子 美貴、中條 真理子                  斉藤 浩志、上原 正直</p>	時間数 <p style="text-align: center;">20 時間</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</li> <li>○ チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。</li> <li>○ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。</li> <li>○ 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>                      その人らしさの理解、高齢者の暮らしと支援の実際、障害のある人の暮らしと支援の実際、介護を必要とする人の生活環境の理解</li> <li>・ <u>介護実践における連携</u>                      多職種連携、地域連携</li> <li>・ <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>                      事故防止・安全対策のためのリスクマネジメント、事故防止・安全対策の基礎と実際、感染管理とリスクマネジメント、感染対策の基礎知識</li> <li>・ <u>介護福祉士の安全</u>                      健康管理の意義と目的、健康管理に必要な知識と技術、安心して働ける環境づくり</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 2 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 吉沢 敦子、大塚 淳、酒井 貴人 樋口 昌子、後藤 浩二、中山 毅	時間数 20 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助技術を修得している。</li> <li>○ 援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。</li> <li>○ 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</li> <li>○ 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護におけるコミュニケーション技術</u>                      話を聴く技法、利用者の感情表現を察する技法、利用者の納得と同意を得る方法、質問の技法、相談・助言・指導の技法、利用者の意欲を引き出す技法、利用者と家族の意向を調整する方法</li> <li>・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>                      コミュニケーション障害のある利用者への対応、高次脳機能障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・ <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>                      チームのコミュニケーションとは、記録の意義と目的、記録の種類、記録の書き方と留意点、情報の保護と管理、報告・連絡・相談、会議</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 2 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 廣瀬 剛、松島 伸語、猪本 秀一、前山 和也 渡邊 善明、横山 進、渡邊 智、八子 美貴、丸山 哲央 川村 栄子、平野 英明、池田 兼一、王永 朋美、内山 修作 羽入 スミ、横山 雅史、酒井 貴人、吉田 亮 小林 良美、上原 正直、川崎 茜、安中 豊、金子 良祐 西村 剛祐、石田 健志、松尾 朋子、須藤 進介、中山 毅 西潟 和枝、笠原 大輔、牛田 佳子、山田 聡、椿 秀子	時間数 20 時間
【到達目標】 ○ 生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。 ○ ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○ 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ○ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。	
【授業内容】 ・ <u>生活支援と ICF</u> 生活支援とアセスメント、ICF の視点とアセスメント ・ <u>ボディメカニクスの活用</u> ・ <u>介護技術の基本</u> 移動・移乗の介護技術の基本、食事の介護技術の基本、入浴・清潔保持の介護技術の基本、排泄の介護技術の基本、着脱・整容・口腔清潔の介護技術の基本、家事援助の基本 ・ <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u> 居住環境の意義、生活空間と介護、居住環境のアセスメント、福祉用具とは、代表的な福祉用具、生活で福祉用具を活用する視点	
【使用テキスト】 介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 第 2 巻 (中央法規出版株式会社)	【単位認定の方法・基準】 修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 廣瀬 剛、松島 伸語、猪本 秀一、前山 和也 渡邊 善明、横山 進、渡邊 智、八子 美貴、丸山 哲央 有波 こずえ、王永 朋美、内山 修作、羽入 スミ 横山 雅史、酒井 貴人、吉田 亮、小林 良美 上原 正直、川崎 茜、安中 豊、金子 良祐、西村 剛祐 石田 健志、松尾 朋子、須藤 進介、日下部 尚美 西潟 和枝、山田 聡、椿 秀子	時間数 30 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>○ 以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗      ・食事      ・入浴・清潔保持      ・排泄</li> <li>・着脱、整容、口腔清潔      ・睡眠      ・終末期の介護</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備</u>  <u>移動・移乗の介護、食事の介護、入浴・清潔保持の介護、排泄の介護、</u>  <u>着脱・整容・口腔清潔の介護、睡眠の介護、終末期の介護</u></li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 2 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要（シラバス）

（介護福祉士実務者研修(通学課程)）

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">介護過程 I</p>	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 吉沢 敦子、西村 剛祐、上原 正直、霜鳥 紀子、樋口 昌子	時間数 20 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護課程の目的、意義、展開等を理解している。</li> <li>○ 介護課程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</li> <li>○ チームで介護課程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護過程の基礎的知識</u>                      介護の概念の見直し、根拠に基づいた介護の実践、介護過程の必要性</li> <li>・ <u>介護過程の展開</u>                      介護過程の展開イメージ、アセスメント、計画の立案、実施、評価</li> <li>・ <u>介護過程とチームアプローチ</u>                      介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 3 巻 （中央法規出版株式会社）</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 吉沢 敦子、西村 剛祐、上原 正直、坂上 美奈子 齋藤 真吏、瀧沢 枝里子、佐藤 祥子、清水 邦夫	時間数 25 時間
<b>【到達目標】</b> ○ 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。	
<b>【授業内容】</b> ・ <u>介護課程の展開の実際、実践的展開</u> <u>利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護課程を展開させる。観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他期間との連携等についても考察させる。</u>  ・ 事例 1 施設における高齢者の介護過程 ・ 事例 2 在宅における高齢者の介護過程 ・ 事例 3 障害のある利用者の介護過程 ・ 演習課題	
<b>【使用テキスト】</b> 介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 第 3 巻 (中央法規出版株式会社)	<b>【単位認定の方法・基準】</b> 修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度



## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">介護過程Ⅲ</p>	授業種類 (講義・ <b>演習</b> ・実習)
担当講師 <p style="text-align: center;">吉沢 敦子、酒井 貴人、石田 健志 渡邊 善明、椿 秀子、大塚 淳、中條 真理子 西村 剛祐、須藤 進介、樋口 昌子</p>	時間数 <p style="text-align: center;">45 時間</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。</li> <li>○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護課程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。</li> <li>○ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。</li> <li>○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護課程の展開の実際</u>                      多様な事例を設定し、介護課程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。</li> <li>・ <u>介護技術の評価</u>                      介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例 1 片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援</li> <li>・ 事例 2 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援</li> <li>・ 事例 3 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援</li> <li>・ 事例 4 介護老人保健施設で生活する利用者への支援</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 3 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、チェックリスト形式による評価、                  全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 村川 英伸、樋口 昌子	時間数 10 時間
<b>【到達目標】</b> ○ 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○ 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。	
<b>【授業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u>                      老化が及ぼす心理的影響、老化による身体的機能の変化と心理的影響、社会的環境の変化と心理、主観的幸福感、QOL・生きがいの視点、老年期の適応課題とパーソナリティ</li> <li>・ <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>                      加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響、具体的な機能の変化</li> </ul>	
<b>【使用テキスト】</b> 介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 第 4 巻 (中央法規出版株式会社)	<b>【単位認定の方法・基準】</b> 修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 村川 英伸、平松 京子、山本 弘美、小林 良子	時間数 20 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</li> <li>○ 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</li> <li>○ 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>人間の成長・発達</u>                      人が発達していくことへの理解、生理的な発達、心理的な発達、発達段階の意味と一般的な発達区分、発達段階とエリクソンの発達段階説</li> <li>・ <u>老年期の発達・成熟と心理</u>                      老年期の人格(人格と尊厳)、老いの喪失体験を価値転換する心理変化、老年期のセクシュアリティの影響、サクセスフル・エイジングと老年期</li> <li>・ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>                      高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点、介護を要する高齢者によくみられる病気・病態</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 4 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 池田 兼一、斉藤 浩志、猪本 朋子、澁谷 歩	時間数 10 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症ケアの取組の頸窩を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</li> <li>○ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>○ 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>認知症ケアの理念</u>                      認知症ケアの理念、認知症ケアの視点</li> <li>・ <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u>                      「人」と「生活」の理解、認知機能の障害が生活に及ぼす影響、中核症状の理解、                      BPSD のなかの心理(精神)症状、BPSD のなかの行動症状、意識障害の理解</li> <li>・ <u>認知症の人とのかかわり・支援の基本</u>                      かかわる際の前提、実際のかかわり方の基本</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 4 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 村川 英伸、斉藤 浩志、有波 こずえ 羽入 スミ、中條 真理子、関口 悟	時間数 20 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 代表的な認知症(若年性認知症を含む)原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等について医学的知識を理解している。</li> <li>○ 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>○ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>医学的側面から見た認知症の理解</u>                      認知症とは、認知症の診断、認知症の原因疾患と治療</li> <li>・ <u>認知症の人や家族への支援の実際</u>                      初期の認知症への介護、中期の認知症への介護、後期の認知症への介護、                      認知症ケアにおけるチームアプローチ、家族へのレスパイトケア、                      家族へのエンパワメント</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 4 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">障害の理解 I</p>	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 <p style="text-align: center;">中山 毅、滝澤 浩一、清水 邦夫、瀧沢 枝里子</p>	時間数 <p style="text-align: center;">10 時間</p>
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</li> <li>○ 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>○ 障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>障害者福祉の理念</u>                      「障害」をどうみるのか、「障害」に関する考え方ー「国際障害分類」と「国際生活機能分類」、障害者福祉の基本理念</li> <li>・ <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u>                      身体障害による生活上の障害、身体障害による心理・行動の特徴、知的障害による生活上の障害、知的障害による心理・行動の特徴、精神障害による生活上の障害、精神障害による心理・行動の特徴</li> <li>・ <u>障害児者や家族へのかかわり・支援の基本</u>                      障害のある人に対する介護の基本的視点、家族に対する支援の基本的視点</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 4 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 村川 英伸、河野 美穂、廣瀬 剛、 須藤 美貴、渡邊 善明	時間数 20 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</li> <li>○ 障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>○ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>医学的側面からみた障害の理解</u>                      視覚障害、聴覚・言語障害、運動機能障害、心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱・直腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝臓機能障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病</li> <li>・ <u>障害児者への支援の実際</u>                      基本的視点に基づいた個別支援、家族の状態の把握と介護負担の軽減、地域におけるサポート体制</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 4 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) ころとからだのしくみ I	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 村川 英伸、平松 京子、小川 佳代、山本 弘美 王永 朋美、内山 修作、羽入 スミ、横山 雅史 酒井 貴人、吉田 亮、小林 良美、上原 正直、川崎 茜 前山 和也、渡邊 智、横山 進、渡邊 善明、八子 美貴 安中 豊、丸山 哲央、金子 良祐、西村 剛祐、石田 健志 松尾 朋子、須藤 進介、西潟 和枝、山田 聡	時間数 20 時間
<b>【到達目標】</b> ○ 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。	
<b>【授業内容】</b> ・ <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u> 移動・移乗に関連するからだのしくみ、食事に関連するからだのしくみ、 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ、排泄に関連するからだのしくみ、 着脱・整容・口腔清潔に関連するからだのしくみ	
<b>【使用テキスト】</b> 介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 第 4 巻 (中央法規出版株式会社)	<b>【単位認定の方法・基準】</b> 修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度



## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 心とからだのしくみⅡ	授業種類 (講義)・演習・実習
担当講師 佐野 一美、村川 英伸、平松 京子、小川 佳代 山本 弘美、有波 こずえ、横山 杏子、朝妻 成美、王永 朋美 内山 修作、羽入 スミ、横山 雅史、酒井 貴人 吉田 亮、小林 良美、上原 正直、川崎 茜、前山 和也 渡邊 智、横山 進、渡邊 善明、八子 美貴、安中 豊 丸山 哲央、金子 良祐、西村 剛祐、石田 健志、松尾 朋子 須藤 進介、日下部 尚美、西潟 和枝、山田 聡	時間数 60 時間
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。</li> <li>○ 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。</li> <li>○ 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</li> </ul>	
<p><b>【授業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>人間の心理</u> 人間の欲求の基本的理解、心とからだのしくみの基礎</li> <li>・ <u>人体の構造と機能</u> 生命の維持・恒常のしくみ、人間のからだのしくみ</li> <li>・ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u>                      移動・移乗における観察のポイント、食事における観察のポイント、入浴・清潔保持における観察のポイント、排泄における観察のポイント、着脱・整容・口腔清潔における観察のポイント、睡眠における観察のポイント、終末期における観察のポイント</li> </ul>	
<p><b>【使用テキスト】</b>                  介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修)                  第 4 巻 (中央法規出版株式会社)</p>	<p><b>【単位認定の方法・基準】</b>                  修了評価、全カリキュラムの履修、授業態度</p>

## 授業概要(シラバス)

(介護福祉士実務者研修(通学課程))

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア	授業種類 (講義・演習・実習)
担当講師 村川 英伸、平松 京子、小川 佳代 山本 弘美、有波 こずえ、横山 杏子	時間数 50 時間＋演習
<b>【到達目標】</b> ○ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。	
<b>【授業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>医療的ケア実施の基礎</u>                      医療的ケア、安全な療養生活、清潔保持と感染予防、健康状態の把握</li> <li>・ <u>喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</u>                      高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論、高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</li> <li>・ <u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)</u>                      高齢者および障害児・者の経管栄養概論、高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</li> <li>・ <u>演習</u>                      喀痰吸引のケア実施の手引き、経管栄養のケア実施の手引き、救急蘇生法の手引き</li> </ul>	
<b>【使用テキスト】</b> 介護職員等実務者研修テキスト(450 時間研修) 第 5 巻 (中央法規出版株式会社)	<b>【単位認定の方法・基準】</b> 修了評価、 チェックリスト形式による評価(演習)、 全カリキュラムの履修、授業態度

介護福祉士実務者研修(通学課程) 担当講師一覧

担当業務内容(担当科目)	講師名	業務に関する資格	業務に関する資格の 取得年月日
人間の尊厳と自立	高橋 是司	社会福祉士	平成5年6月17日
	平野 英明	介護福祉士	平成3年7月18日
	中山 毅	社会福祉士	平成5年5月7日
社会の理解 I	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	阿部 勝之	社会福祉士	平成22年4月27日
社会の理解 II	佐野 一美	社会福祉士	平成16年4月16日
	山田 一郎	社会福祉士	平成6年5月6日
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日
	中山 毅	社会福祉士	平成5年5月7日
	松澤 香織	介護福祉士	平成23年4月19日
介護の基本 I	後藤 浩二	介護福祉士	平成14年4月26日
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	池内 明	介護支援専門員	平成13年1月1日
	鈴木 智正	—	—
	西潟 和枝	介護福祉士	平成7年8月7日
介護の基本 II	佐藤 映美子	介護支援専門員	平成13年1月1日
	八子 美貴	介護福祉士	平成11年4月12日
	中條 真理子	介護福祉士	平成14年4月12日
	斉藤 浩志	介護福祉士	平成8年5月2日
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日
コミュニケーション技術	吉沢 敦子	介護福祉士	平成8年4月26日
	後藤 浩二	介護福祉士	平成14年4月26日
	酒井 貴人	介護福祉士	平成7年3月23日
	大塚 淳	介護福祉士	平成16年5月7日
	樋口 昌子	介護福祉士	平成15年5月9日
	中山 毅	社会福祉士	平成5年5月7日
生活支援技術 I	安中 豊	介護福祉士	平成18年8月31日
	羽入 スミ	介護福祉士	平成20年5月16日
	横山 雅史	介護福祉士	平成17年3月31日
	横山 進	介護福祉士	平成19年4月13日
	王永 朋美	介護福祉士	平成22年4月21日
	丸山 哲央	介護福祉士	平成19年4月13日
	吉田 亮	介護福祉士	平成24年4月27日
	金子 良祐	介護福祉士	平成14年3月22日
	酒井 貴人	介護福祉士	平成7年3月23日
	小林 良美	介護福祉士	平成14年3月22日
	松島 伸語	理学療法士	平成21年6月22日
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日
	須藤 進介	介護福祉士	平成14年3月29日
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	石田 健志	介護福祉士	平成15年8月5日
	川崎 茜	介護福祉士	平成18年7月28日
	川村 栄子	介護福祉士	平成19年4月20日
	前山 和也	介護福祉士	平成22年4月7日
	池田 兼一	介護福祉士	平成11年4月12日
	猪本 秀一	介護福祉士	平成9年5月19日
	渡邊 智	介護福祉士	平成6年4月7日
	渡邊 善明	介護福祉士	平成13年5月9日
	内山 修作	介護福祉士	平成15年4月11日
	八子 美貴	介護福祉士	平成11年4月12日
	平野 英明	介護福祉士	平成3年7月18日
	廣瀬 剛	作業療法士	平成12年4月24日
	西潟 和枝	介護福祉士	平成7年8月7日
	笠原 大輔	社会福祉士	平成18年4月14日
	牛田 佳子	理学療法士	平成11年4月26日
	山田 聡	介護福祉士	平成19年3月31日
	椿 秀子	介護福祉士	平成17年4月15日
	中山 毅	社会福祉士	平成5年5月7日

生活支援技術Ⅱ	安中 豊	介護福祉士	平成18年8月31日
	羽入 スミ	介護福祉士	平成20年5月16日
	横山 雅史	介護福祉士	平成17年3月31日
	横山 進	介護福祉士	平成19年4月13日
	王永 朋美	介護福祉士	平成22年4月21日
	丸山 哲央	介護福祉士	平成19年4月13日
	吉田 亮	介護福祉士	平成24年4月27日
	金子 良祐	介護福祉士	平成14年3月22日
	酒井 貴人	介護福祉士	平成7年3月23日
	小林 良美	介護福祉士	平成14年3月22日
	松島 伸語	理学療法士	平成21年6月22日
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日
	須藤 進介	介護福祉士	平成14年3月29日
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	石田 健志	介護福祉士	平成15年8月5日
	川崎 茜	介護福祉士	平成18年7月28日
	前山 和也	介護福祉士	平成22年4月7日
	猪本 秀一	介護福祉士	平成9年5月19日
	渡邊 智	介護福祉士	平成6年4月7日
	渡邊 善明	介護福祉士	平成13年5月9日
	内山 修作	介護福祉士	平成15年4月11日
	日下部 尚美	社会福祉士	平成17年4月22日
	八子 美貴	介護福祉士	平成11年4月12日
	有波 こずえ	看護師	平成4年4月30日
	廣瀬 剛	作業療法士	平成12年4月24日
	西潟 和枝	介護福祉士	平成7年8月7日
山田 聡	介護福祉士	平成19年3月31日	
椿 秀子	介護福祉士	平成17年4月15日	
介護過程Ⅰ	吉沢 敦子	介護福祉士	平成8年4月26日
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	霜鳥 紀子	介護支援専門員	平成18年4月21日
	樋口 昌子	介護福祉士	平成15年5月9日
介護過程Ⅱ	吉沢 敦子	介護福祉士	平成8年4月26日
	佐藤 祥子	介護支援専門員	平成15年4月16日
	坂上 美奈子	介護支援専門員	平成14年4月12日
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	瀧沢 枝里子	社会福祉士	平成19年4月13日
	齋藤 真史	介護支援専門員	平成24年4月27日
	清水 邦夫	社会福祉士	平成20年4月11日
介護過程Ⅲ	吉沢 敦子	介護福祉士	平成8年4月26日
	酒井 貴人	介護福祉士	平成7年3月23日
	須藤 進介	介護福祉士	平成14年3月29日
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日
	石田 健志	介護福祉士	平成15年8月5日
	大塚 淳	介護福祉士	平成16年5月7日
	中條 真理子	介護福祉士	平成14年4月12日
	椿 秀子	介護福祉士	平成17年4月15日
	渡邊 善明	介護福祉士	平成13年5月9日
発達と老化の理解Ⅰ	樋口 昌子	介護福祉士	平成15年5月9日
	村川 英伸	看護師	平成6年6月10日
発達と老化の理解Ⅱ	山本 弘美	看護師	平成5年9月30日
	村川 英伸	看護師	平成6年6月10日
	平松 京子	看護師	平成1年1月10日
	小林 良子	看護師	平成10年4月9日
認知症の理解Ⅰ	斉藤 浩志	介護福祉士	平成8年5月2日
	池田 兼一	介護福祉士	平成11年4月12日
	猪本 朋子	介護福祉士	平成8年1月4日
	澁谷 歩	介護福祉士	平成22年4月12日

認知症の理解Ⅱ	羽入 スミ	介護福祉士	平成20年5月16日	
	関口 悟	社会福祉士	平成20年4月16日	
	斉藤 浩志	介護福祉士	平成8年5月2日	
	村川 英伸	看護師	平成6年6月10日	
	中條 真理子	介護福祉士	平成14年4月12日	
	有波 こずえ	看護師	平成4年4月30日	
障害の理解Ⅰ	滝澤 浩一	社会福祉士	平成26年3月28日	
	中山 毅	社会福祉士	平成5年5月7日	
	清水 邦夫	社会福祉士	平成20年4月11日	
	瀧沢 枝里子	社会福祉士	平成19年4月13日	
障害の理解Ⅱ	河野 美穂	理学療法士	平成15年11月28日	
	須藤 美貴	社会福祉士	平成21年5月19日	
	村川 英伸	看護師	平成6年6月10日	
	廣瀬 剛	作業療法士	平成12年4月24日	
	渡邊 善明	介護福祉士	平成13年5月9日	
こころとからだのしくみⅠ	安中 豊	介護福祉士	平成18年8月31日	
	羽入 スミ	介護福祉士	平成20年5月16日	
	横山 雅史	介護福祉士	平成17年3月31日	
	横山 進	介護福祉士	平成19年4月13日	
	王永 朋美	介護福祉士	平成22年4月21日	
	丸山 哲央	介護福祉士	平成19年4月13日	
	吉田 亮	介護福祉士	平成24年4月27日	
	金子 良祐	介護福祉士	平成14年3月22日	
	山本 弘美	看護師	平成5年9月30日	
	酒井 貴人	介護福祉士	平成7年3月23日	
	小川 佳代	看護師	平成1年5月2日	
	小林 良美	介護福祉士	平成14年3月22日	
	上原 正直	介護福祉士	平成19年5月30日	
	須藤 進介	介護福祉士	平成14年3月29日	
	西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日	
	石田 健志	介護福祉士	平成15年8月5日	
	川崎 茜	介護福祉士	平成18年7月28日	
	前山 和也	介護福祉士	平成22年4月7日	
	村川 英伸	看護師	平成6年6月10日	
	渡邊 智	介護福祉士	平成6年4月7日	
	渡邊 善明	介護福祉士	平成13年5月9日	
	内山 修作	介護福祉士	平成15年4月11日	
	八子 美貴	介護福祉士	平成11年4月12日	
	平松 京子	看護師	平成1年1月10日	
	西潟 和枝	介護福祉士	平成7年8月7日	
	こころとからだのしくみⅡ	山田 聡	介護福祉士	平成19年3月31日
		安中 豊	介護福祉士	平成18年8月31日
羽入 スミ		介護福祉士	平成20年5月16日	
横山 杏子		看護師	平成14年4月22日	
横山 雅史		介護福祉士	平成17年3月31日	
横山 進		介護福祉士	平成19年4月13日	
王永 朋美		介護福祉士	平成22年4月21日	
丸山 哲央		介護福祉士	平成19年4月13日	
吉田 亮		介護福祉士	平成24年4月27日	
金子 良祐		介護福祉士	平成14年3月22日	
佐野 一美		社会福祉士	平成16年4月16日	
山本 弘美		看護師	平成5年9月30日	
酒井 貴人		介護福祉士	平成7年3月23日	
小川 佳代		看護師	平成1年5月2日	
小林 良美		介護福祉士	平成14年3月22日	
上原 正直		介護福祉士	平成19年5月30日	
須藤 進介		介護福祉士	平成14年3月29日	
西村 剛祐	介護福祉士	平成18年1月23日		
石田 健志	介護福祉士	平成15年8月5日		

こころとからだのしくみⅡ	川崎 茜	介護福祉士	平成18年7月28日
	前山 和也	介護福祉士	平成22年4月7日
	村川 英伸	看護師	平成6年6月10日
	朝妻 成美	看護師	平成21年4月17日
	渡邊 智	介護福祉士	平成6年4月7日
	渡邊 善明	介護福祉士	平成13年5月9日
	内山 修作	介護福祉士	平成15年4月11日
	日下部 尚美	社会福祉士	平成17年4月22日
	八子 美貴	介護福祉士	平成11年4月12日
	平松 京子	看護師	平成1年1月10日
	有波 こずえ	看護師	平成4年4月30日
	西潟 和枝	介護福祉士	平成7年8月7日
	山田 聡	介護福祉士	平成19年3月31日
	医療的ケア	横山 杏子	看護師
山本 弘美		看護師	平成5年9月30日
小川 佳代		看護師	平成1年5月2日
村川 英伸		看護師	平成6年6月10日
平松 京子		看護師	平成1年1月10日
有波 こずえ		看護師	平成4年4月30日
介護職員の基本的マナー	佐野 一美	社会福祉士	平成16年4月16日
情報管理の基礎知識	鈴木 智正	—	—
福祉車両体験学習	デイサービスセンター職員	—	—
レクリエーション体験学習	猪本 秀一	介護福祉士	平成9年5月19日
ボランティア体験学習	ボランティア担当職員	—	—
栄養講義・調理実習	調理課職員	—	—